

専攻の教員

安藤正人 教授 Masahito ANDO

●アーカイブズ調査・整理・記述論、アーカイブズ史

世界の人々が国や民族の壁を越えて理解し合うための架け橋となるような、優れたアーキビストを育てたいと願っています。



入澤寿美 教授 Toshiharu IRISAWA

●アーカイブズと情報処理

ICTの活用は現在・未来ともに不可欠です。インターネットの仕組みやデータのデジタル化を理解し、現在・未来に通用するアーキビストを目指しましょう。



高埜利彦 教授 Toshihiko TAKANO

●日本前近代記録史料学

社会が求める新しい学問に参加し、これからの日本と世界を作り上げていきませんか。これほどやりがいのある、パイオニアとなりえる学問は他にありません。



武内房司 教授 Fusaji TAKEUCHI

●東アジア記録史料学

第三者の解釈や加工の加わっていない直接の記録ほど多くのことを訴えかけるものはありません。ともにそうした記録の大切さを学んでいければと思います。



保坂裕興 教授 Hirooki HOSAKA

●アーキビスト教育論、デジタル・アーカイブズ論

解明すべき<過去>、いつまでも伝えたい<現在>、願望する<未来>。これらに誠実に向き合おうとする時、アーカイブズがある。ともに学びましょう。



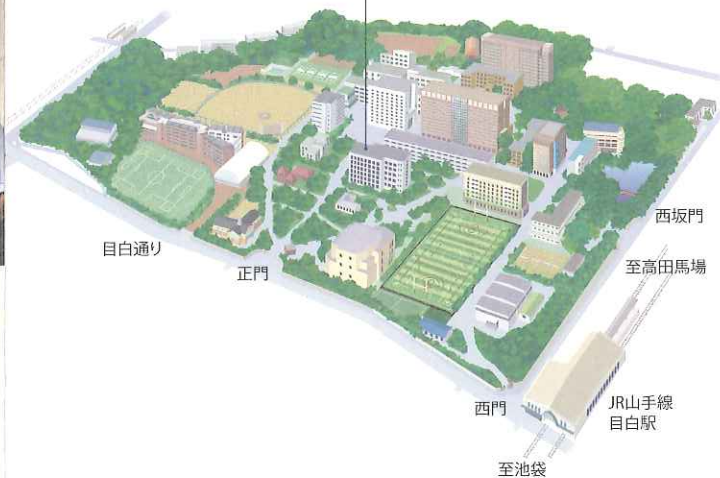
清原和之 助教 Kazuyuki KIYOHARA

●アーカイブズ理論、アーカイブズと記憶

社会のなかの多様な資料をいかに遺し、未来へと継承していくか。記録・アーカイブズ管理のあり方について、ともに考えていきましょう。



アーカイブズ学専攻 北2号館6階



お問い合わせ先

学習院大学大学院 人文科学研究科
アーカイブズ学専攻

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

Tel: 03 (3986) 0221 内線3817

Fax: 03 (5992) 1246

Mail: gcas-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/arch/>

※本専攻では、一般社団法人テキストスタイル倶楽部からの指定寄付金を使わせていただいています。

学習院大学大学院
アーカイブズ学専攻



記録を
守り、
記憶を
伝える

未来をひらくアーキビスト

どこか彼方から聞こえる声。かつての自分、友人、家族、様々なことを教えてくれた先生、政策を託した政治家、私を産み育ててくれた先祖たち…。人間は、様々な過去の声を聞き、大切なことは記録し、現在の生き様を探り、未来に向き合う。

ならば組織や集団は？ と問えば、規模が大きくなり、時間が経過するほど記録に依拠し、自らの活動を確認する。アーカイブズに耳を傾け、その文化を継承・発展させる。だから私たちは、記録を守り、記憶を伝える。そして未来をひらく。

アーカイブズ学は、これを効果的に実現する方法を科学的に探求する。この分野の専門家はアーキビストと呼ばれる。

学ぶこと、できること

- **日本で初めての「アーカイブズ学」の学位**
博士前期課程修了者は「修士(アーカイブズ学)」、博士後期課程修了者は「博士(アーカイブズ学)」の学位が授与されます。
- **アーキビスト資格の取得**
本専攻のカリキュラムは、「日本アーカイブズ学会登録アーキビスト」(2012年度創設)の資格申請要件(6条1号申請)を満たします。
- **働きながら学べます**
本専攻は、学部卒業者、社会人、さまざまな出身、年齢のみなさんが共に学ぶ場です。
仕事をもつ社会人のみなさんでも授業を受けやすいよう、平日の6限目(18:00~19:30)と土曜日に、多くの授業を開講しています。

目指そうアーキビスト！！

本専攻の学生は、アーキビストを目指して、資料調査、フィールドワーク、機関等の訪問調査、学会発表など、様々な研究活動を行っています。本専攻にはこれらを支援する助成制度があります。

● 多彩な研究テーマ

社会人を含む様々なバックグラウンドをもった学生が在籍していることを反映して、多彩な研究が行なわれています。

(研究テーマの例)

- ・米国型記録管理システムの形成とその日本的展開
- ・キリスト教結社文書の調査・編成記述・資源化
- ・機能分析にもとづくレコード・キーピングシステムの構築
- ・国際的な近現代建築管理論による日本の建築アーカイブズ



アーカイブズ学専攻

1987年、日本で公文書館法が制定され、国や自治体にはアーカイブズに関し適切な措置をとる責務が課された。しかし、専門職員＝アーキビストについては、養成体制が整備されていないとし、「当分の間」「置かないことができる」とされた。以来、数多の協会・学会が、その状況を打破する努力を重ねてきた。学習院大学大学院は、その社会的・文化的責任を受けとめ、2008年、人文科学研究科の中にアーカイブズ学専攻を開設した。

一方、公文書管理法(2009年)は、「民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源」として公文書等を位置付けた。本専攻は、こうした状況の下、記録/アーカイブズへの最大のアクセスを保障する専門職・アーキビストを育成し、世に送り出すことを目的としている。

カリキュラム

アーカイブズ基礎理論	アーカイブズ学理論研究 基礎理論、アーカイブズ史、海外文献研究
アーカイブズ資源研究	記録史料学研究 前近代記録論、近現代記録論、東アジア記録論、デジタルアーカイブズ論
中核科目	アーカイブズ・マネジメント論研究 現代アーカイブズ管理論、記録管理法制論、公文書管理論、レコード・マネジメント論、アーカイブズ保存論、視覚アーカイブズ論
アーカイブズ管理研究	アーカイブズ・マネジメント論演習 編成・記述論、情報処理論
学際科目	情報資源論 図書館情報学、博物館情報学
応用科目	アーカイブズ学演習 アーカイブズ学研究法 アーカイブズ実習 機関実習と事前学習・事後総括

● 幅広い調査研究活動

国内外の資料調査活動に積極的に参加し、研究に活かしています。また、東日本大震災によって生じた被災資料のレスキュー活動にも、多くの学生がボランティアとして参加しています。

● 積極的な研究成果の発表

日本アーカイブズ学会、記録管理学会、全史料協、SAA、ICAなど国内外の学会に参加し、研究発表等を行っています。また、日々の研鑽の場として、学生主体で研究会を企画し、議論を深めています。これらの成果は、専攻の研究年報『GCAS Report』等に発表しています。

